

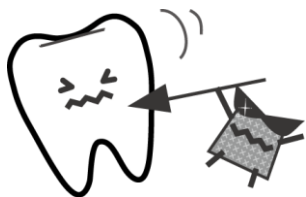
妊娠中の歯科治療について



WANPUG

妊娠中の歯科治療について

妊娠中は、口の中の唾液が粘っこくなり、また、つわりなどで食事が不規則になると口の中が汚れやすくなるため、
齲^{うし}歯(虫歯)をはじめ口腔内にトラブルを起こしやすい時期です。



妊娠中の歯周病が、「子宮内胎児発育不全」や、「早産」の増加に関連しているという報告もあります。

妊娠中も口腔内ケアを心がけましょう。

妊娠中の歯科治療で最適な時期は、妊娠 4-6 か月の間と
言われています。

通院しにくくなる分娩期、産褥期に
入る前に治療をしましょう。



【予防】



母子手帳を
もらったら
歯の検診を
受けましょう。

「ていねいな
歯磨き」が
大切です。



「バランス
の良い食事」
を心がけま
しょう。



【治療】

妊娠中のX線撮影

放射線の胎児への影響が問題になるのは受精後 11 日-妊娠 10 週とされています。

しかし、診断用放射線は線量が少なく、また腹部に防護エプロンをつけるため、単純撮影数枚程度の撮影であれば問題ありません。

内服薬

薬剤による胎児の催奇形性^{さいきけいせい}が問題になるのは妊娠 4-12 週とされています。



ただし、妊娠中にも使用できる抗生物質、鎮痛薬があります。**妊娠していることを伝えて**処方を受けるようにしてください。もし、内服が心配な時には、産科医に確認してください。(NSAIDs：ロキソニン・ボルタレン等は妊娠初期だけでなく、後期にも使用はお勧めできません。)

麻酔



通常の局所麻酔であれば胎児に心配はありません。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

<産科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605